

リスク管理

内部統制システムは内外の環境変化に応じて発生するリスクに対応するための仕組みである。構築すると変更の必要がないような固定的なものではない。内部統制システムの再構築を適切なタイミングを捉えて実施するのが経営者の重要な役割だ。この内部統制システムの見直し時期について検討してみよう。

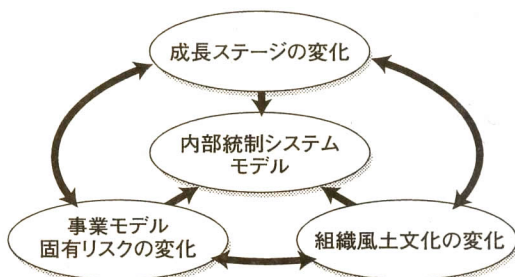
◇

リスクマネジメント

ABC

内部統制システムの見直し

モデル全体のイメージ



してリスクの質・量が変化し、必ず、内部統制システムの変更を伴う。成長に伴う内部統制システムの変更では従来の統制の仕組み、人依存とルール依存の再調整の問題が大きい。組織規模が大きくなると、組織牽制機能を発揮するため、業務統合のための一定の整備期間が必要になり、その間の統制機能の低下により問題を引き起こす例は多い。内部統制システム再構築の課題は、中型の全社レベルの統制と分散型での業務プロセスレベルの統制システムとの再編の問題となる。

③組織文化風土の革新に
 以上三つの変化は、相互に関連するケースも多い。どのような状況下での内部統制システムの再構築かについては十分に検討し、内部統制システムモデルの選択を行うことになる。次回はこのうち成長ステージの変化について詳しくみてみる。(日本総合研究所)

基準や手続きを大きく革新する時である。

①成長ステージの進行に伴う変更
 事業成長に伴い組織規模は拡大し、取り扱い製品・サービスは増加し、そのために必要な情報処理能力も変化し、結果と事業の固有リスクの大きな変化に伴う変更

②事業モデルの固有リスクの再編の問題となる。

事業改革に応じ再構築

以上三つの変化は、相互に関連するケースも多い。どのような状況下での内部統制システムの再構築かについては十分に検討し、内部統制システムモデルの選択を行うことになる。次回はこのうち成長ステージの変化について詳しくみてみる。(日本総合研究所)